

## 旭川医科大学の沿革 昭和48年～平成15年

### はじめに

旭川医科大学は1973(昭和48)年9月、医学部医学科のみの単科大学として誕生し、その後、幾多の試練を経ながらも着実に研究・教育・診療体制を充実・発展させてきた。開学20余年を経た1996(平成8)年には新たに看護学科が創設され、2学科体制となった。両学科とも大学院を擁し、2003(平成15)年、開学30周年を迎えた。本学の主な出来事は後掲の関連年表に、講座・学科科目をはじめ各部局の沿革はそれぞれ当該のページにゆずり、ここでは、本学のあゆみを巨視的に概観しておこう。

### 日本近現代史のなかの医師

江戸時代までの日本では、医療の担い手である医師の養成に国家が積極的に介入することはなかった。明治になり中央集権国家が樹立されるとともに、それも国策の一環と位置づけられるようになり、主としてドイツをモデルにひな型が確立した。1906(明治39)年には「医師法」が制定され、医師の資格や業務が法的に明確になった。明治から大正を経て昭和の戦前期まで、医師の養成機関といえば大学と専門学校の二本立てであった。すなわち、7つの帝国大学医学部と6つの官立医科大学、慶応・慈恵・日本医大などの私立大学医学部・医科大学、それに医学専門学校が各地にあった。

戦時体制が強化されるにつれ、官立の大学医学部・医科大学に軍医養成機関として臨時医学専門学校が附置されるようになり、さらに太平洋戦争中の1942(昭和17)年から終戦にかけて、軍医のさらなる不足に対処するために医師速成教育を目的とする医学専門学校が急速に各地に新設された。

終戦直後には、多くの医療施設の破壊・閉鎖により医療の提供は困難を極めた。こうした中で1948(昭和23)年、医療施設の要件などを定めた「医療法」、医療従事者の資格・身分などを定めた新しい「医師法」や「歯科医師法」、「保健婦助産婦看護婦法」が制定されるなど、医療の新しい基盤づくりが進められた。医師・看護婦などの医療従事者は国家試験合格を経て授与される国家資格となった。また、この新たな「医師法」により医師養成は専門学校では認められず大学に一本化された。それと前後して戦前からの医学専門学校の多くが相次いで大学医学部・医科大学に昇格した。

その後、国公私立あわせて46大学による医師養成体制が1960年代までつづいた。入学定員は1960(昭和35)年までは3000人以下であったが、前年における国民皆保険制度の実施に伴って医療ニーズが急激に増大したことなどにより、医師が不足ぎみになってきた。それに対処すべく同年から定員が徐々に増加して、1965(昭和40)年には約4000人となった。それでも医師の慢性的不足傾向はつづいた。

### 旭川医科大学開学へ

1970(昭和45)年、佐藤栄作内閣のときに医師養成政策の大転換が行われた。同年、1985(昭和60)年までに人口10万あたり150人の医師を確保するという行政目標が立てられ、医学部・医科大学の新設が積極的に図られることになった。

医療過疎地を抱え医師不足に悩んでいた北海道でも、全道をあげて、北大に次ぐ第二の国立大医学部の誘致に積極的に動いた。とりわけ道北・道東の医療過疎地の解消と医療水準の向上は至上命題であった。わが旭川医科大学もそうした流れの中で誕生したわけである。候補地として釧路と旭川が最後までしのぎを削ったが、文部省は、1972(昭和47)年1月、旭川に設置することを正式に決定した。

当初は1973(昭和48)年4月開学の予定であったが、設置の前提となる「国立学校設置等の一部を改正する法律」の国会審議が大幅に遅れたため、開学は9月にずれ込み、授業開始は11月であった。入学定員は100名。この年のみ入学試験は10月に実施されたが、次年度からは当時の国立大学二期校のひとつとして3月下旬に実施された。この1973(昭和48)年といえば、読売巨人軍がプロ野球9年連続日本一という偉業を成し遂げた年として知られるが、反面、第一次オイルショックとそれに伴う狂乱物価が国民生活を襲った年でもあった。

この年から政府の無医大県解消計画も積極的に進められた。こうして新設された医学部・医科大学は、本学を含め、1979(昭和54)年までに国立17、私立16に達した。そして1981(昭和56)年には医学部入学定員がなんと8350人に達した。人口10万に対して150人の医師を確保するという目標は当初の計画を2年前倒しにしたかたちで実現した。近年ではむしろ医師の養成は抑制ぎみであり、本学においても、1979(昭和54)年には医学科入学定員が120名に増えたが、その15年後の1989(平成元)年には当初の100人に戻されている。ちなみに、他大学を卒業してから医師をめざす人材が年々増えていることに鑑み、2000(平成12)年度からは、1学年の定員枠100名を維持したままで2年次後期編入学試験(募集人員5名)も実施されている。

### 仮学舎から現在地へ

開学当時はまだ現在地(旭川市緑が丘)の講義実習棟は完成しておらず、最初の約半年間は北海道教育大学付属旭川小学校の旧校舎(旭川市北門町)を仮学舎として授業が展開された。現在地に移転したのは翌1974(昭和49)年5月である。同年にはま

た、体育館・福祉厚生施設・中央機械室なども竣工した。さらに翌1975(昭和50)年には本部管理棟・基礎臨床研究棟・動物実験施設・R I 研究施設が竣工し、これ以降も諸施設は順調に整備されていった。

### 講座・学科目の整備・充実・改組

後掲の年表にあるように、開学当初は8講座(基礎5・臨床3)・9学科目(いずれも一般教育)体制であったが、1974(昭和49)年に7講座(基礎4・臨床3)・1学科目が追加、さらに1975(昭和50)年に7講座(基礎4・臨床3)、1976(昭和51)年に6講座(いずれも臨床)、1977(昭和52)年に2講座(基礎1・臨床1)が追加され、これ以後、基礎14講座・臨床16講座・一般教育10学科目体制がしばらく続いた。

その後、時代のニーズに即応させるべく、1985(昭和60)年に歯科口腔外科学講座、1988(昭和63)年に臨床検査医学講座がそれぞれ追加された。さらに平成に入ると、初めての寄附講座である臨床薬理学講座が1993(平成5)年から6年間にわたって置かれた。

1996(平成8)年には新たに看護学科が設置され、基礎看護学・臨床看護学・地域保健看護学の三大講座体制がスタートした。一般教育の学科目として同年に数理情報科学、翌年に生命科学が増設されたのも、看護学科設置に伴う教官定員増によるものであった。さらに、2002(平成14)年には臨床に救急医学講座が設けられた。

ここ数年は、学問分野の進展等にに合わせて講座・学科目の改称や統廃合も進んできた。2000(平成12)年には細菌学講座を微生物学講座に、2002(平成14)年には耳鼻咽喉科学講座を耳鼻咽喉学・頭頸部外科学講座にそれぞれ改称した。また同年、看護学科では三大講座体制を一大講座体制に統合した。さらに2003(平成15)年には衛生学講座と公衆衛生学講座とを合わせて健康科学講座に改組、また、教官定員削減に伴って学科目哲学を廃止し学科目歴史を歴史・哲学と改称した。

### 附属施設等の整備・充実

早くも1976(昭和51)年には体育館や基礎臨床研究棟が増築された。これを皮切りに以後たびたび施設の増改築が行われてきた。野球場・テニスコートの竣工は翌1977(昭和52)年であった。1978(昭和53)年には附属図書館が竣工した。同年には動物実験施設も設置された。以下、1980(昭和55)年の学長棟・副学長棟・局長棟・職員研修施設棟竣工、翌1981(昭和56)年の弓道場・実験実習機器センター竣工とつづき、1983(昭和58)年ともなると、体育館2階にトレーニング・コーナー、R I 施設に有害廃液焼却施設が設けられるなど、きめ細かな整備が進んだ。1984(昭和59)年には学生の健康管理にとって重要な保健管理センターが設置され、翌年に竣工した。1988(昭和63)年には5階建の臨床研究棟が竣工した。さらに、1999(平成11)年には情報処理センター、2001(平成13)年に医学教育実践指導センターなど、時代のニーズに即応した施設が着実に整備されて今日に至っている。

ここで入試制度の変化と本学の対応についてまとめておこう。既述のように本学は、発足当初は国立二期校に属し、3月下旬に入学試験が行われていた。1979(昭和54)年、国公立大学共通一次試験の実施に伴って一期・二期の区別がなくなり、各大学独自の二次試験は3月上旬に一本化された。このとき本学では、他の多くの大学とともに試験の中に面接と小論文を導入した。さらに1992(平成4)年には、大学入試センター試験の実施に伴って国公立大学入試日程に分離分割方式が導入され、本学独自の2次試験も前期(2月下旬)と後期(3月中旬)の二本立てとなった。さらに、意欲に燃えた優秀な現役生を確保すべく1998(平成10)年度には推薦入学制度を導入した。そして2002(平成14)年度には、基礎学力に加え医療従事者としての適性と十分な意欲を持つ人材を選抜するための、AO(アドミッション・オフィス)入試が導入された。国立大学医学部では初のAO入試である。それを実施する母体として、同年度にアドミッションセンターが発足し、専任の教授・助教授が置かれた。

### 附属病院の整備・充実

本学附属病院の建設が着工されたのは1974(昭和49)年3月であり、工事半ばの翌75年4月には附属病院創設準備室が設置されて活動を開始した。そして1976(昭和51)年の11月、附属病院が15診療科・6部の陣容でオープンした。ここに本学は、研究・教育・診療の三拍子揃った医科大学として名実ともに本格的な活動を開始したのである。開院当初の病床数は327床であった。防災センター、段差のないアプローチ、ゆとりのある玄関ホール、各階の憩いの場デイルーム、書類・薬・医療材料等の迅速な移動のための気送管・ボックスコンベア、カルテの集中管理、一般用・障害者用・配膳用・非常用など用途別のエレベーター、中央集塵装置など、当時としては画期的な工夫が随所に盛り込まれていた。看護婦宿舎もほぼ同時期に竣工した。こうして一応の完成を見た附属病院であったが、同年に早くも増築が始まり、以後たびたび増改築が行われた。

1986(昭和61)年には病理部が設置された。翌1987(昭和62)年には屋外リハビリテーション施設が竣工した。1989(平成元)年に輸血部、1992(平成4)年に救急部、1998(平成10)年には医療情報部が設置された。1999(平成11)年には他大学に先駆け

た新たな施設として遠隔医療センターが竣工し、そして2000(平成12)年には治験支援センターが設置された。こうして院内の諸施設が充実していき、2001(平成13)年には待望の新病棟が完成し、9月に記念式典が挙行された。さらに、2002(平成14)年には総合診療部、2003(平成15)年には周産母子センターと経営企画部というように、時代のニーズに即応する診療体制がますます整備されてきた。

## 日本近現代史のなかの看護婦・助産婦・保健婦

のちの助産婦にあたる産婆は既に江戸時代には職業として確立されていた。1899(明治32)年には「産婆規則」が制定され、業務や資格が制度化された。これに対し看護婦のほうは、江戸時代以前の日本では病院医療が未発達だったために職業としての確立は遅れた。ようやく1885(明治18)年頃から1年半ないし2年制の看護学校が設立され始め、本格的な看護婦の登場となった。

看護婦が女性特有の職業として広く知られ評価を高めたのは、日清・日露戦争における日赤(日本赤十字社)看護婦の救護活動によるところが大きい。大正時代には衛生思想の普及とともに病気に対する一般国民の理解が進み、看護婦の需要は拡大した。質的に差が大きく役割もあいまいな看護婦であったが、1915(大正4)年、「看護婦規則」の制定により、各府県で異なっていた資格制度が統一され、養成教育施設の標準が示された。

保健婦は保健指導にあたる職業女性であり、もともとは公衆衛生婦や巡回看護婦の名で呼ばれていたが、1937(昭和12)年、「保健所法」が制定され各地に保健所が設けられるとともに、保健婦という名称で初めて法的に位置づけられた。さらに1941(昭和16)年の「保健婦規則」で、保健婦も看護婦に準じて資格の全国的統一がなされた。

これら「産婆規則」「看護婦規則」「保健婦規則」は、戦後の1948(昭和23)年に「保健婦助産婦看護婦法」に一本化され、同時にこれら3職種の免許資格が厳しくなった。看護婦・保健婦・助産婦の免許は文部大臣または厚生大臣の指定した学校・養成所を卒業し国家試験に合格した者に与えられることになった。2002(平成14)の法改正により、男性の看護士・保健士と合わせ、呼称は保健師・助産師・看護師と改められた。

## 看護学科の創設・整備・充実

1959(昭和34)年、「国民健康保険法」の改正によってすべての国民が医療保険に加入できるようになった。こうして日本は、いわゆる国民皆保険の時代に入った。ところが、この皆保険の実現は医療ニーズの急速な増大をまねき、看護婦の慢性的な供給不足をもたらした。そのため看護婦には、低賃金でありながら激務を強要されがちな状況がつづいたが、1992(平成4)年、「看護婦等の人材確保の促進に関する法律」が制定され、看護職者の安定的な供給がめざされた。

ちょうどその頃、医療の高度化・複雑化も急速に進展し、文部省・厚生省・日本看護協会・各種関連学会などは、連携して、医療の高度化・複雑化に即応できる優れた知識と技術を持った看護職者の育成を期するようになった。こうして、看護教育の中心は急速に、従来の専門学校から短大へ、さらに4年制大学へとシフトしてきた。そういう流れの中でわが旭川医科大学看護学科は、平成8(1996)年、全国43番目の4年制大学看護学科として誕生した。1年次入学定員60名に加え、1998(平成10)年度からは3年次編入学定員10名で今日に至っている。

発足当初は基礎看護学・臨床看護学・地域保健看護学の三大講座体制であったが、2002(平成14)年、各講座の有機的な連携を図り円滑な運営をめざすために、看護学講座という一大講座に統合された。

## 地域貢献と国際交流の活発化

大学には常に、地域に開かれた存在であることが要請されている。とりわけ税金を主財源としている国立大学の場合、地域社会への貢献は必須であろう。とりわけ医学部は、患者の診療を行うだけでなく周辺地域住民の疾病予防・健康管理へのニーズにも積極的に応えてこそ、その存在意義が格段に大きくなる。地域貢献の一環として本学では既に、1986(昭和61)年9月に公開講座を開始し、地域住民の疾病予防や健康管理に貢献してきた。この伝統を活かして、2000(平成14)年には、地域住民の生涯学習のニーズ等にも応えるため、新たに旭川医科大学派遣講座を開始した。毎年200種類以上の講演メニューが用意されている。

また、急激に進展する国際化の波の中にあって、2000(平成12)年には、本学とアメリカ合衆国ジョージア州にあるマーサー大学、中華人民共和国江蘇省にある南京中医薬大学との間に、それぞれ学術交流に関する協定が締結された。その主な内容は、教員および研究者の交流、学生の交流、共同研究、学術資料・刊行物および情報等の交換である。さらに看護学科では、2003(平成15)年から、JICA(国際協力事業団)による母子保健人材育成コース研修事業に積極的に参画し、研修学生を主としてア

フリカ・中南米諸国から受け入れ、大きな成果を収めている。

## 近年の相次ぐカリキュラム改革

医師・看護師などの医療人の養成は、他の職業人の場合とは異なり、国策の一環であるという面が極めて強く、どの養成機関で学ぶにしても国民の医療ニーズに即応できる一定の水準に達している必要がある。そのような観点に立ち、全国に80ある医学部医学科では、2002(平成14)年度から、文部科学省の「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」が策定した「医学教育モデル・コア・カリキュラム」にそって、ほぼ同一の内容の講義・実習が展開されている。この全国共通のカリキュラム(通称コアカリ)に準拠すれば、教員も学生も、医師国家試験まで無理・無駄・むらのない教育や学習を行うことができるわけである。本学医学科のカリキュラムも、このコアカリの影響で大きく改革された。

本学医学科では過去にもたびたび、社会の変化等に即応してカリキュラムの微修正を繰り返してきたが、1999(平成11)年度からは、従来のものを一新する全く新しいカリキュラムとなった。1コマ100分授業を60分授業に改めて密度の濃い授業展開を期し、早期体験実習、問題解決型の医学チュートリアルなど、低学年から具体的・実践的な教育を重視するようになった。また、一般教育の選択科目を大幅に増やし、しかも選択科目と必修科目のメリハリも利かせた。これらはいずれも上述のコアカリの精神の先取りしたものである。さらに、コアカリ正式導入後の2002(平成14)年には、従来の不備を是正すべく再度のカリキュラム改革を断行した。

一連の改革に際し、本学では、臨床実習の改革の一環として、他大学に先駆けてクリニカル・クラークシップを導入し、2003(平成15)年度から実施している。また、2002(平成14)年には、医学教育実践指導センターに所属する施設としてスキルズ・ラボラトリーが竣工した。このラボラトリーは、学部学生および研修医に必須の基本的な手技に関する技能教育、医師の生涯教育における高度技能習得の援助、看護師・救急救命士など医療従事者の技術教育、一般市民の基本的救急救命処置の実習などに関する技術的指導を援助、ならびに教材の開発を目的として設立されたものである。

なお、看護学科にあっては、まだ全国共通のコア・カリキュラムは定まっていないが、創設当初から不断にカリキュラム見直しの作業を独自に進めてきた。そして、創設4年を経て初めての卒業生を送り出した2000(平成12)年、国民の医療ニーズ等をふまえた、いっそう特色のある斬新なカリキュラムが実現した。

## 国立大学法人化へ

国の財政が逼迫している折から、どの大学にも効率の良い管理・運営体制が求められている。全国の国立大学は「競争的環境の中で個性輝く大学」のキャッチフレーズのもと、2004(平成16)年度から法人化されることになった。空前絶後の大改革といってよい。本学でも目下その準備に追われ、2002(平成14)年には国立大学法人移行準備室を立ち上げた。研究戦略室や教育支援室も、この法人化を睨んで新たに設置された。

公立・私立も含め全国の医学部は、一方では上述の共通コア・カリキュラムに縛られて個性を打ち出しにくくなりながらも、他方では、競争的環境の中で個性輝く大学として生き残りを模索することが求められてきている。近年、本学では、周辺大学との統合や連合が取りざたされ、その模索も繰り返されたが、当面は、小回りの利く単科医科大学として存続することになった。教育・研究・診療のいっそうの充実のみならず、さまざまな地域貢献・国際交流も新たに求められている。そんな大きな期待と若干の不安とが交錯する中で、2003(平成15)年11月、本学の開学30周年記念式典は挙行された。(文責/歴史・哲学/近藤均)

## 旭川医科大学年表

昭和46年～平成15年

## ●旭川医科大学の主要な出来事

## [昭和46年]

- 8/20 北海道知事が医大誘致場所を旭川市に決定する
- 9/ 2 国立医科大学北海道誘致期成会が、道内の地方自治体・各種団体を結集して設立される

## [昭和47年]

- 1/11 47年度予算原案をめぐる大臣折衝で、国立医大創設準備費の復活と北海道(旭川市)、山形、愛媛の医大(医学部)設置が決定される
- 5/ 1 文部省が旭川医科大学創設準備事務を北大学長に委嘱する  
文部省が北海道大学に旭川医科大学創設準備要員として教授2名、事務官3名の定員を配置する
- 6/22 文部省に医科大学(医学部)設置準備会が設置される
- 7/ 1 旭川医科大学創設準備室が北海道大学内に設置される  
旭川医科大学創設準備室長に北大教授として山田守英(学長予定者)、事務長に山本義和が発令、また北大助教授笹森秀雄(進学課程責任者予定者)が同室勤務(兼務)を命ぜられる
- 8/29 財団法人国立旭川医科大学設置協力会が設置される
- 12/18 旭川医科大学仮校舎(旧北海道教育大学附属旭川小学校)の改修工事着工する(48. 2. 10完工)

## [平成48年]

- 2/ 1 昭和48年度旭川医科大学の入試要項を発表する
- 2/ 3 市立旭川病院のうち研究室(本学暫定施設として使用予定)の改修工事着工する(48. 3. 31完工)
- 3/16 北大教授として黒田一秀(旭川医科大学医学部附属病院長予定者)が発令される
- 4/ 1 旭川医科大学創設準備室が北大事務局より旭川市北門町の仮校舎に移転する
- 5/ 7 旭川医科大学校舎新営工事の起工式を現地で挙げる
- 9/25 参議院本会議において「国立学校設置法等の一部を改正する法律」が可決成立する(9. 29公布施行)
- 9/29 旭川医科大学が設置される(昭和48年法律第103号)  
8講座(解剖学第一・生理学第一・生化学・病理学第一・細菌学・内科学第一・外科学第一・泌尿器科学)、9学科目(哲学・歴史・心理学・社会学・物理学・化学・生物学・英語・ドイツ語)が開設される  
学長山田守英、開設の講座・学科目の各担当教官、事務局長前田清一および事務局等の事務官が発令される
- 10/17 第1回の教授会を開催する
- 10/21 48年度入学試験(第1回)を旭川工業高等専門学校、旭川東高等学校、旭川西高等学校の3会場で実施する(志願者1,685名、受験者1,620名)
- 10/29 48年度入学試験合格者を発表する(101名)
- 11/ 5 48年度入学式(第1回)を仮校舎講堂において挙げる(入学者男95名、女5名、計100名)
- 11/ 6 授業を開始する
- 11/20 旭川医科大学開学記念式典および祝賀会が開催される
- 11/ 設置協力会建設の本学教職員宿舍A棟(20戸)およびB棟(30戸)が竣工

## ●国内外の主要な出来事

## 1971

- 5/14 横綱大鵬引退
- 6/17 沖縄返還協定調印
- 8/16 株価大暴落(ドルショック)

## 1972

- 2/ 3 冬季オリンピック札幌大会開催
- 2/28 連合赤軍浅間山荘銃撃戦終結
- 3/21 高松塚古墳で極彩色壁画を発見
- 4/16 ノーベル賞作家川端康成自殺
- 5/15 沖縄の施政権返還、沖縄県発足
- 6/ 5 第1回国連人間環境会議開催(ストックホルム)
- 7/ 7 田中角栄が首相に就任
- 8/26 第20回オリンピックミュンヘン大会開催
- 9/29 日中共同声明調印、国交正常化
- 11/ 5 上野動物園で中国政府寄贈のパンダ初公開

## 1973

- 1/27 米政府・南ベトナム政府などがベトナム平和協定調印(パリ)
- 2/15 外国為替が変動相場制へ移行
- 4/24 組合闘争による電車遅延のため首都圏の38駅で通勤客らが暴徒化
- 5/ 6 4歳馬ハイセイコー10戦連勝
- 5/15 ドイツ民主共和国(東独)と国交樹立
- 8/ 8 韓国の有力政治家金大中が東京のホテルからKCIA(韓国中央情報部)により誘拐(金大中事件)
- 9/15 中央線国電に老人・身体障害者優先席(シルバーシート)登場
- 10/ 6 エジプト・シリアが進撃しイスラエルと交戦、第4次中東戦争始まる
- 10/23 第1次石油危機(オイルショック)始まる
- 10/23 江崎玲於奈がノーベル物理学賞受賞
- 11/ 1 プロ野球読売巨人軍が9年連続日本一(V9)を達成
- 11/29 熊本市の大洋デパートで火災、死者103人
- 12/22 国民生活安定緊急措置法・石油需給適正化法を公布・施行

●国内外の主要な出来事

●旭川医科大学の主要な出来事

[昭和49年]

1974

- 2/25 衆院予算委で商社の売惜しみや石油会社の便乗値上げなどを追及
- 3/12 小野田寛郎元少尉、フィリピンのルバンゲから29年ぶりに帰国
- 6/10 東京国立博物館で開催中のモナリザ展の入場者が150万人を突破
- 8/ 8 ニクソン米大統領がウォーターゲート事件により辞任
- 8/29 池田理代子作「ベルサイユのばら」宝塚歌劇団月組により初演、「ベルばら」ブーム
- 10/ 8 前首相佐藤栄作のノーベル平和賞受賞が決
- 10/14 後楽園球場で巨人軍長嶋茂雄の引退セレモニー
- 12/ 9 金脈問題により辞任した田中角栄に代わり三木武夫が首相に就任

- 2/28 本学と旭川市との間で関連教育病院協定書を締結する
- 3/27 附属病院の建設工事着工する
- 3/ 講義実習棟新営(4階・6,689㎡)並びに中央研究棟新営(3階・1,461㎡)工事が竣工する
- 4/ 1 新たに7講座(解剖学第二・生理学第二・薬理学・病理学第二・内科学第二・小児科学・産婦人科学)と1学科目(数学)が開設される
- 4/20 昭和49年度入学式を仮校舎講堂において挙行する(入学者男92名、女9名、計101名)
- 5/ 9 校舎の一部完成により、仮校舎よりの移転を完了する
- 6/ 7 本学に副学長2名、参与若干名を置くこととなる
- 8/ 体育館新営(1階・1,082㎡)および福利厚生施設新営(2階・1,848㎡)工事が竣工する
- 9/25 福利厚生施設内の食堂・喫茶・売店が開店する
- 9/ 中央機械室新営工事(2階・1,613㎡)が竣工する
- 10/16 副学長に下田晶久(教育研究および厚生補導担当)および黒田一秀(医療担当)が発令される
- 10/ 設置協力会建設の本学教職員宿舎C棟(30戸)およびD棟(20戸)が竣工する

[昭和50年]

1975

- 3/10 東海道・山陽新幹線が東京・博多間全通
- 5/ 3 ベトナム戦争終結
- 5/ 7 エリザベス英女王夫妻来日
- 5/16 田部井淳子が女性として世界初のエベレスト登頂に成功
- 7/16 東京江戸川区で六価クロムによる土壌汚染が問題化
- 7/19 沖縄国際海洋博覧会開催
- 8/23 日本最長(8489メートル)の中央自動車道恵那山トンネルが開通
- 9/30 天皇・皇后が初の訪米に出発
- 10/ 6 第29回世界医師会総会が東京で開催

- 2/20 参与に黒川利雄、丹羽貴知蔵、日野原重明、広瀬経一、盛永 要が発令される
- 3/18 文部省に国立医科大学附属病院創設準備事務連絡協議会が設置される
- 4/ 1 新たに7講座(衛生学・公衆衛生学・寄生虫学・法医学・外科学第二・整形外科科学・眼科学)が開設される
- 4/18 附属病院創設準備室が設置される
- 4/18 昭和50年度入学式を体育館において挙行する(入学者男91名、女9名、計100名)
- 6/ 本部管理棟新営工事(2階・1,280㎡)が竣工する
- 7/12 白菊会旭川医科大学支部が充足する
- 7/ 基礎臨床研究棟新営工事(8階・9,939㎡)が竣工する
- 9/24 第1回医大祭「創造から想像へ」を開催する
- 9/ 動物実験施設新営(3階・1,172㎡)およびR I 研究施設新営(2階・900㎡)工事が竣工する
- 10/ 設置協力会建設の本学教職員宿舎E棟(30戸)が竣工する
- 11/ 7 昭和50年度解剖体追悼法要(第1回)を挙行する

[昭和51年]

1976

- 1/ 6 京都平安神宮の本殿・内拝殿などが過激派の放火により全焼
- 1/31 日本初の五つ子が鹿児島市で誕生
- 2/ 4 ロッキード社が多額の航空機売り込み工作資金を日本政府高官などへ流した、と米上院が公表(ロッキード事件の始まり)
- 7/17 第21回オリンピックモントリオール大会開

- 3/ 体育館増築(1階・194㎡)および基礎臨床研究棟増築(8階・256㎡)工事が竣工する
- 陸上競技場(サッカー場、ラグビー場を含む)および近文墓地内の納骨堂が竣工する
- 体育館2階のスペースに武道場を仮設する
- 4/ 1 新たに6講座(内科学第三・精神医学・皮膚科学・耳鼻咽喉科学・放射線医学・麻酔学)が開設される

## ●旭川医科大学の主要な出来事

- 事務局に部制がしかれる
- 4/16 51年度入学式を体育館において挙行する(入学者男97名、女3名、計100名)
- 4/ 福利厚生施設の一部にサークル用物品庫を仮設する  
公務員宿舎501棟新営工事(40戸)が竣工する
- 5/10 旭川医科大学に医学部附属病院が設置される(15診療科、6部)  
医学部附属病院長に黒田一秀が発令される
- 5/ 臨床講義棟新営(1階・1,444㎡)並びに中央機械室増築(2階・390㎡)工事が竣工する
- 6/15 納骨堂(近文墓地内)の入魂式を挙行する
- 7/ 基礎臨床研究棟増築(8階・3,236㎡)、看護婦宿舎新営(5階4,247㎡(52年3/増築分を含む))および公務員宿舎502棟(40戸)・503棟(40戸)新営工事が竣工する
- 9/ 附属病院新営(11階・38,266㎡(同年12月増築分1,229㎡を含む))、中央機械室増築(2階・389㎡)および廃液処理室・焼却炉室新営(2階・447㎡)工事が竣工する
- 10/ 1 附属病院患者等の福利厚生上の便宜を図るため、財団法人旭仁会が設立される
- 10/26 旭川医科大学医学部附属病院開院記念祝典を挙行する
- 11/ 1 附属病院開院し、診療を開始する
- 12/ 附属病院増築(高エネルギー施設(1階・357㎡)およびRI廃棄物保管庫新営(1階・26㎡)工事が竣工する

## [昭和52年]

- 2/20 参与に今井道雄、黒川利雄、丹羽貴知蔵、日野原重明が発令される
- 2/ 中央機械室増築工事(2階・185㎡)が竣工する
- 3/ 看護婦宿舎増築工事(5階・1,575㎡)および野球場、テニスコート(5面)が竣工する
- 4/ 1 事務局長に三輪陽一が発令される
- 4/15 52年度入学式(第5回)を体育館において挙行する(入学者男89名、女12名、計101名)
- 4/18 新たに2講座(生化学第二・脳神経外科学)が開設される
- 8/ 公務員宿舎504棟新営工事(20戸)が竣工する
- 11/ 附属病院棟増築工事(11階・3,910㎡)が竣工する

## [昭和53年]

- 2/ 附属図書館新営工事(2階・1,736㎡)が竣工する
- 3/ 基礎臨床研究棟増築(1階・760㎡)・本部管理棟増築(2階・898㎡)、屋外運動場管理施設新営(1階・158㎡)・附属病院棟増築(119㎡)および看護婦宿舎増築(5階・1,708㎡)工事が竣工する
- 4/ 1 医学部附属動物実験施設が設置される
- 4/14 53年度入学式を体育館において挙行する(入学者男86名、女15名、計 101名)
- 10/ 附属動物実験施設増築(358㎡)およびドッグファームの新営(241㎡)工事が竣工する
- 11/ 1 動物慰霊碑の入魂式を挙行する

## ●国内外の主要な出来事

- 7/27 ロッキード事件に関し、東京地検が前首相田中角栄を外為法および外国貿易管理法違反容疑で逮捕
- 8/20 新幹線こだま号に禁煙車登場
- 9/ 9 毛沢東中国共産党主席が死去
- 10/ 1 国家公務員に週休2日制試行
- 10/29 山形県酒田市で大火、消失1200棟
- 11/10 天皇在位50周年記念式典が日本武道会で開催
- 12/18 教育課程審議会が「ゆとりある教育」を文相に答申
- 12/21 ジャンボ宝くじ発売(1等1000万円)
- 12/24 三木武夫に代わって福田赳夫が首相に就任

## 1977

- 2/10 日米漁業協定調印(200カイリ漁業水域)
- 8/ 7 北海道の有珠山が噴火を開始
- 9/ 5 巨人軍の王貞治が国民栄誉賞第1号受賞
- 9/29 日本赤軍によるボンベイでの日航機ハイジャック事件に関し、政府が超法規的措置
- 7/14 初の静止気象衛星ひまわりの打ち上げに成功

## 1978

- 3/16 インフルエンザ大流行(香港・ソ連型)、患者296万人に達す
- 3/18 東京原宿で原色服を着て踊る若者が日曜ごとに増加(竹の子族)
- 5/20 新東京国際空港(成田)開港式
- 5/23 初の国連軍縮総会が開幕
- 8/12 日中平和友好条約調印
- 12/ 6 福田武夫に代わって大平正芳が首相に就任

●国内外の主要な出来事

●旭川医科大学の主要な出来事

[昭和54年]

1979

- 1/ 1 米中国交回復
- 1/13 国公立大学共通1次試験、初めて実施
- 3/26 イスラエルとエジプト、ワシントンで平和条約に調印
- 3/28 米スリーマイル島原子力発電所で大量の放射能漏れ
- 5/12 本州四国連絡橋尾道今治ルートの大三島橋(全長328m)開通
- 6/12 元号法公布
- 6/28 第5回先進国首脳会議が東京で開催(東京サミット)
- 7/ 1 ソニー、ウォークマン(ヘッドホンステレオ)を発売
- 8/ 1 国鉄、山口線で蒸気機関車の運転再開
- 9/ 7 国際児童年世界会議がモスクワで開催
- 10/26 韓国大統領朴正熙暗殺

- 2/20 参与に今井道雄、黒川利雄、丹羽貴知蔵、日野原重明が発令される
- 3/24 第1回卒業証書授与式を体育館において挙行する(卒業生男75名、女3名、計78名)
- 3/ 附属病院中央診療棟B増築(3階・268㎡)および危険物保管庫新営(20㎡)工事が完工する
- 4/ 1 学生定員、20名増により120名となる  
大学院医学研究科が設置される  
参与に清水文彦が発令される
- 4/13 54年度入学式を体育館において挙行する(入学者男111名、女8名、計119名)
- 4/16 54年度大学院入学試験(第1回)を実施する
- 4/19 54年度大学院入学試験合格者を発表する(合格者6名)
- 5/16 第67回医師国家試験合格者が発表される(本学合格者73名、合格率93.6%)
- 7/ 1 学長に山田守英が発令(再任)される
- 8/ 講義実習棟2階の第3・4講義室改修および第8講義室をロッカー室に改修する工事が完工する
- 12/ 講義実習棟4階に第4実習室・心理学実習室・LL準備室の新営(502㎡)および臨床講義棟のロビーの増築(1階・147㎡)工事が完工する

[昭和55年]

1980

- 7/17 死去した大平正芳に代わって鈴木善幸が首相に就任
- 7/19 第22回オリンピックモスクワ大会開催、日・米などはソ連のアフガニスタン侵攻(前年12月)に抗議して参加をボイコット
- 9/11 埼玉所沢の富士産婦人科病院の乱診・乱療が判明、被害届900人

- 3/25 第2回卒業証書授与式を体育館において挙行する(卒業生男77名、女10名、計87名)
- 3/ 附属病院中央診療棟B増築(3階・135㎡)、講義実習棟2階の第1・第2講義室の改修および学長棟・副学長棟・局長棟・職員研修施設棟新営工事が完工する
- 4/ 1 事務局長に森井宏一が発令される
- 4/11 55年度入学式を体育館において挙行する(入学者男112名、女8名、計120名)
- 11/ 自転車置場新営工事(60㎡)が完工する

[昭和56年]

1981

- 1/22 環境庁が佐渡島の国際保護鳥トキの人工増殖に着手
- 3/16 臨時行政調査会初会合、「小さな政府」を提唱
- 3/20 神戸市主催神戸ポートアイランド博覧会開幕
- 6/15 バリ警視庁が日本人留学生を逮捕、死体切断し肉片を食したと話題
- 7/20 東京・大阪・名古屋間で電子郵便開始
- 10/16 北炭夕張新鉱でガス突出事故、93人死亡
- 10/19 福井謙一、フロンティア電子理論によりノーベル化学賞受賞

- 2/20 参与に今井道雄、黒川利雄、丹羽貴知蔵、日野原重明が発令される
- 3/25 第3回卒業証書授与式を体育館において挙行する(卒業生男82名、女7名、計89名)
- 3/ 講義実習棟1階の解剖学および第1・第2・第3の各実習室の改修、附属病院特殊診療棟増築(3階・1,101㎡)および弓道場新営(77㎡)工事が竣工する
- 4/ 1 医学部附属実験実習機器センターが設置される  
参与に清水文彦が発令される
- 4/10 56年度入学式を体育館において挙行する(入学者男110名、女10名、計120名)
- 6/ 附属実験実習機器センター増築工事(5階・2,228㎡)が竣工する
- 7/ 1 学長に黒田一秀が発令される  
副学長に小野寺杜吉(教育研究および厚生補導担当)および吉岡 一(医療担当兼病院長)が発令される
- 8/ 屋外運動場管理施設増築工事(1階・3㎡)が完工する
- 9/ 附属病院玄関棟増築工事(1階・230㎡)が完工する
- 10/ 1 事務局長に谷本周太郎が発令される
- 10/ 附属実験実習機器センター増築工事(3㎡)が竣工する

●旭川医科大学の主要な出来事

[昭和57年]

- 3/25 第4回卒業証書授与式を体育館において挙げる(卒業生男94名、女4名、計98名)
- 3/ 体育館増築工事(1階・6㎡)が完工する
- 4/ 9 57年度入学式(第10回)を体育館において挙げる(入学者男105名、女 15名、計120名)
- 10/ 附属病院玄関棟増築工事(1階・19㎡)が完工する
- 12/ 附属動物実験施設増築工事(2階・901㎡)が竣工する

[昭和58年]

- 2/20 参与に今井道雄、丹羽貴知蔵、日野原重明、山田守英が発令される
- 3/25 第5回卒業証書授与式を体育館において挙げる(卒業生男88名、女11名、計99名)  
本学最初の課程博士の学位記授与式を挙げる
- 3/ 武道場新営(1階・424㎡)および福利厚生施設増築(1階・33㎡)工事が完工する
- 3/ 体育館2階の仮武道場跡にトレーニング・コーナーを設営する
- 4/ 1 参与に清水文彦が発令される
- 4/ 8 58年度入学式を体育館において挙げる(入学者男104名、女16名、計120名)
- 6/15 旭川医科大学開学10周年記念祝典を挙げる
- 9/30 本学最初の論文博士の学位記授与式を挙げる
- 10/ 1 副学長に石井兼央(教育研究および厚生補導担当)が発令される
- 12/ 1 事務局長に木下 明が発令される
- 12/ RI 研究施設の有害廃液焼却施設新営工事(46㎡)が完工する

[昭和59年]

- 3/24 第6回卒業証書授与式を体育館において挙げる(卒業生男80名、女15名、計95名)  
講義実習棟増築工事(4㎡)が竣工する
- 4/12 保健管理センターが設置される
- 4/13 昭和59年度入学式を体育館において挙げる(入学者男99名、女21名、計120名)

[昭和60年]

- 2/20 参与に今井道雄、丹羽貴知蔵、日野原重明、山田守英が発令される
- 3/25 第7回卒業証書授与式を体育館において挙げる(卒業生男104名、女9名、計113名)
- 3/ 福利厚生施設増築(1階・224㎡)、保健管理センター新営(福利厚生施設の2階部分に245㎡)および動物実験施設増築(2階・83㎡)工事が竣工する
- 4/ 1 歯科口腔外科学講座が増設される  
参与に清水文彦が発令される
- 4/ 5 60年度入学式を体育館において挙げる(入学者男93名、女27名、計120名)
- 7/ 1 学長に黒田一秀が発令(再任)される  
副学長に石橋 宏(教育研究および厚生補導担当)および鮫島夏樹(医療担当兼病院長)が発令される

●国内外の主要な出来事

1982

- 2/ 8 東京千代田区のホテル・ニュージャパンで火災、死者32人
- 2/ 9 日航機が羽田沖で墜落、死者24人
- 11/27 鈴木善幸に代わって中曽根康弘が首相に就任
- 12/23 電電公社がテレホンカード使用の公衆電話を開設

1983

- 4/15 千葉浦安に東京ディズニーランド開園
- 6//26 参議院選挙、全国区は初の比例代表制
- 7/15 任天堂がファミリーコンピュータを発売
- 9/ 1 ソ連空軍機が大韓航空機を撃墜、日本人28人を含む269人死亡
- 9/24 NHK朝ドラ「おしん」、最高視聴率65%を記録
- 10/14 宮城県で日本初の試験管ベビー誕生

1984

- 1/26 いわゆる「ロス疑惑」にかんする週刊誌報道開始
- 3/13 宇都宮病院での精神病患者に対する違法診療・日常的暴行が発覚
- 7/28 第23回オリンピックロサンゼルス大会開催、ソ連圏15カ国不参加

1985

- 3/17 つくば科学万博開幕
- 3/22 厚生省が国内エイズ患者第1号を認定
- 4/ 1 民営化により日本たばこ産業株式会社(JT)と日本電信電話株式会社(NTT)が開業
- 6/15 金の現物まがい商法の豊田商事社長刺殺(被害届2万5千人余)
- 8/12 ボーイング747SR機、群馬御巣鷹山山中に墜落炎上、死者520人
- 10/15 ソ連書記長ゴルバチョフがペレストロイカ(改革)を発表
- 10/16 阪神タイガース、21年ぶりのリーグ優勝

## ●国内外の主要な出来事

## [昭和61年]

- 1/28 米でスペースシャトル爆発事故
- 2/21 長寿世界一の泉重千代、徳之島で死去(120歳238日)
- 2/26 フィリピンでマルコス大統領亡命、アキノ新大統領組閣
- 4/ 1 男女雇用機会均等法施行
- 4/26 ソ連でチェルノブイリ原発事故
- 11/25 三菱銀行有楽町支店前で3人組が現金輸送車から3億3千万強奪

## [昭和62年]

- 2/23 日銀が公定歩合を0.5%引き下げ、超低金利時代到来
- 4/ 1 国鉄が分割・民営化されJRに
- 5/ 8 俵万智の歌集『サラダ記念日』刊行、ベストセラーに
- 7/ 4 閣議で生産者米価を31年ぶりに引き下げ
- 10/12 利根川進が日本人初のノーベル医学生理学賞を受賞
- 11/ 6 中曽根康弘に代わって竹下登が首相に就任

## [昭和63年]

- 3/13 青函トンネル開通
- 3/17 東京ドーム落成式
- 4/10 瀬戸大橋開通
- 7/ 5 有力政治家への未公開株式譲渡に絡むリクルート事件が発覚
- 9/17 第24回オリンピックソウル大会開催

## [昭和64(平成元年)] 1月7日までは昭和64年

- 1/ 7 昭和天皇没、平成と改元
- 4/ 1 消費税導入
- 6/ 2 竹下登に代わって宇野宗佑が首相に就任
- 6/ 4 中国で天安門事件(第2次)
- 8/ 9 宇野宗佑に代わって海部俊樹が首相に就任
- 11/ 9 ベルリンの壁崩壊

## [平成2年]

- 4/ 1 大阪で国際花と緑の博覧会(花の万博)開幕
- 6/29 天皇家の次男が結婚、秋篠宮家創立

## ●旭川医科大学の主要な出来事

- 3/25 第8回卒業証書授与式を体育館において挙げる(卒業生男106名、女8名、計114名)
- 4/ 1 事務局長に高梨正昭が発令される
- 4/11 61年度入学式を体育館において挙げる(入学者男97名、女23名、計120名)
- 4/22 医学部附属病院に病理部が設置される
- 9/ 6 旭川医科大学医学部附属病院開院10周年記念祝典を挙げる
- 9/ 8 昭和61年度旭川医科大学公開講座「思春期危機」(第1回)を開講する
- 11/ 物品庫(体育館)新営工事(1階・89㎡)が竣工する

- 2/20 参与に今井道雄、丹羽貴知蔵、日野原重明、山田守英が発令される
- 3/25 第9回卒業証書授与式を体育館において挙げる(卒業生男113名、女11名、計124名)
- 3/ 屋外リハビリテーション施設工事が竣工する
- 4/ 1 参与に清水文彦が発令される
- 4/10 62年度入学式(第10回)を体育館において挙げる(入学者男93名、女27名、計120名)
- 7/ 1 学長に下田品久が発令される
- 8/ 1 副学長に安孫子 保(教育研究および厚生補導担当)および鮫島夏樹(医療担当兼病院長)が発令される
- 11/ 附属病院玄関棟外来食堂・喫茶室増築工事(1階・88㎡)が竣工する

- 3/25 第10回卒業証書授与式を体育館において挙げる(卒業生男87名、女23名、計110名)
- 4/ 1 事務局長に織田忠利が発令される
- 4/ 8 63年度入学式を体育館において挙げる(入学者男86名、女34名、計120名)
- 5/25 臨床検査医学講座が増設される
- 10/ 臨床研究棟新営工事(5階・1,318㎡)が竣工する

- 1/ 附属病院棟増築工事(5㎡)が竣工する
- 2/20 参与に鈴木 茂、丹羽貴知蔵、日野原重明、山田守英が発令される
- 3/25 第11回卒業証書授与式を体育館において挙げる(卒業生男107名、女16名、計123名)
- 4/ 1 学生定員、20名減により100名となる
- 参与に清水文彦が発令される
- 4/ 7 平成元年度入学式を体育館において挙げる(入学者男76名、女24名、計100名)
- 6/28 医学部附属病院に輸血部が設置される

- 2/ 廃棄物保管庫I新営工事(1階・29㎡)が竣工する
- 3/ 附属病院MRI-CT装置棟新営工事(1階・465.7㎡)が竣工する

●旭川医科大学の主要な出来事

- 3/23 第12回卒業証書授与式を体育館において挙げる(卒業生男101名、女21名、計122名)
- 4/ 1 事務局長に萱 昭一が発令される
- 4/ 6 平成2年度入学式を体育館において挙げる(入学者男79名、女21名、計100名)
- 12/ 廃棄物保管庫Ⅱ新営工事(1階・12m)が竣工する。

[平成3年]

- 2/20 参与に鈴木 茂、丹羽貴知蔵、日野原重明、山田守英が発令される
- 3/25 第13回卒業証書授与式を体育館において挙げる(卒業生男96名、女25名、計121名)
- 4/ 5 平成3年度入学式を体育館において挙げる(入学者男84名、女16名、計100名)
- 7/ 1 学長に清水哲也が発令される
- 8/ 1 副学長に東 匡伸(教育・研究および厚生補導担当)および水戸廸郎(医療担当兼病院長)が発令される

[平成4年]

- 3/25 平成3年度学士学位記授与式を体育館において挙げる(卒業生男86名、女27名、計113名)
- 4/ 1 事務局長に檜野 豊が発令される
- 4/10 医学部附属病院に救急部が設置される  
平成4年度入学式(第20回)を体育館において挙げる(入学者男76名、女24名、計100名)
- 12/ 附属病院薬剤部当直室取設工事(16m)が竣工する

[平成5年]

- 2/20 参与に鈴木 茂、坂東 徹、日野原重明、廣重 力、山田守英、横路孝弘が発令される
- 3/25 平成4年度学士学位記授与式(第15回)を体育館において挙げる(卒業生男95名、女20名、計115名)
- 3/ 附属病院洗濯室取設工事(41m)が竣工する
- 4/ 9 平成5年度入学式を体育館において挙げる(入学者男65名、女35名、計100名)
- 5/ 看護婦宿舍全面改修工事が竣工する
- 6/11 臨床薬理学(ツムラ)講座(寄附講座)が開設される(3年契約)
- 8/ 2 第1回大学説明会を開催する
- 11/ 5 旭川医科大学開学20周年記念祝典を挙げる

[平成6年]

- 3/25 平成5年度学士学位記授与式を体育館において挙げる(卒業生男85名、女34名、計119名)
- 4/ 1 事務局長に宮崎治彦が発令される
- 4/ 8 平成6年度入学式を体育館において挙げる(入学者男80名、女20名、計100名)
- 4/27 看護学科設置準備委員会を設置する
- 5/20 医学部附属病院に集中治療部が設置される

●国内外の主要な出来事

- 10/ 3 東西ドイツ統一
- 10/20 病原性大腸菌O157で幼稚園児2人死亡、O157騒動の淵源
- 12/ 2 TBS秋山豊寛がソ連のソユーズTM11号で日人初の宇宙飛行

1991

- 1/16 多国籍軍がイラクを攻撃し湾岸戦争勃発
- 6/ 3 雲仙普賢岳で大砕流
- 6/17 南アフリカでアパルトヘイト(人種隔離・差別)関連諸法を廃止
- 9/17 南北朝鮮が国連に同時加盟
- 11/ 5 海部俊樹に代わって宮沢喜一が首相に就任
- 12/21 ソビエト連邦消滅

1992

- 1/11 大学入試センター試験発足
- 1/26 大相撲初場所19歳5ヶ月の貴花田が史上最年少の初優勝
- 4/ 1 育児休業法施行
- 6/15 国連平和維持活動(PKO)協力法成立
- 7/25 第25回オリンピックバルセロナ大会開催

1993

- 1/ 1 EC統合市場発足
- 1/27 曙が初の外国人横綱に
- 5/15 日本初のプロサッカーリーグ(Jリーグ)開幕
- 6/ 9 皇太子徳仁、小和田雅子と結婚
- 7/12 北海道南西沖地震(M7.8)
- 7/16 日本一の高層ビル横浜ランドマークタワー(296m)オープン
- 8/ 9 宮沢喜一に代わって細川護熙が首相に就任
- 9/13 イスラエル・PLOがパレスチナ暫定自治に合意

1994

- 1/29 政治改革関連法が成立し小選挙区比例代表並立制を導入
- 4/28 細川護熙に代わって羽田孜が首相に就任
- 6/30 羽田孜に代わって村山富市が首相に就任
- 10/13 大江健三郎ノーベル文学賞受賞

●国内外の主要な出来事

[平成7年]

- 1/17 阪神・淡路大震災、死者5000人余
- 3/20 東京都心部で地下鉄サリン事件
- 4/ 9 東京と大阪の知事、ともにタレントが当選  
(青島幸男・横山ノック)
- 8/ 1 北大医学部付属病院で日本初の遺伝子治療
- 10/ 6 薬害エイズ訴訟、和解へ
- 11/ 9 野茂英雄が米大リーグで日本人初の新人王に

●旭川医科大学の主要な出来事

- 1/25 学内LAN管理運営委員会を設置する
- 2/20 参与に伊藤義郎、菅原功一、日野原重明、廣重 力、山田守英、横路孝弘が発令される
- 3/24 平成6年度学士学位記授与式を体育館において挙行する(卒業生男73名、女25名、計98名)
- 4/ 1 附属図書館長に片桐 一教授(併任)が発令される
- 4/ 7 平成7年度入学式を体育館において挙行する(入学者男67名、女33名、計100名)
- 7/ 1 学長に清水哲也が発令(再任)される
- 8/ 1 副学長に安孫子 保(教育研究および厚生補導担当)および久保良彦(医療担当)が発令される

1995

[平成8年]

- 1/11 村山富市に代わって橋本龍太郎が首相に就任
- 2/10 北海道豊浜トンネルで巨石崩落、20人死亡
- 4/ 1 らい予防法廃止
- 6/ 1 新食糧法施行、米の自由販売開始
- 7/19 第26回オリンピックアトランタ大会開催
- 10/20 衆議院選挙が初の小選挙区比例代表並立制で実施

- 3/25 平成7年度学士学位記授与式を体育館において挙行する(卒業生男80名、女19名、計99名)
- 4/ 1 事務局長に高橋 喬が発令される  
看護学科が設置される  
学科目に数値情報科学が増設される  
臨床薬理学(ツムラ)講座(寄附講座)が開設される(3年契約の更新)
- 4/ 5 平成8年度入学式を体育館において挙行する(入学者医学科男71名、女29名、計100名、看護学科男4名、女56名、計60名)
- 6/16 副学長に片桐 一(教育研究および厚生補導担当)が発令される  
附属図書館長に宮岸 勉教授(併任)が発令される

1996

[平成9年]

- 5/27 神戸の中学校校門に小学生の切断頭部が放置、  
酒鬼薔薇聖斗を名乗る中学生の犯行
- 6/17 臓器移植法成立
- 7/ 1 香港が中国に返還
- 8/31 ダイアナ元英皇太子妃がパリで交通事故死
- 11/17 北海道拓殖銀行の経営が破綻
- 12/ 1 地球温暖化防止京都会議開催
- 12/16 テレビアニメ「ポケモン」を見た子供560人が  
光感受性発作

- 2/20 参与に伊藤義郎、菅原功一、丹保憲仁、日野原重明、廣重 力、堀 達也、  
前原澄子が発令される
- 3/25 平成8年度学士学位記授与式を体育館において挙行する(卒業生男79名、女17名、計96名)
- 4/ 1 学科目に生命科学が増設される  
附属図書館長に岩瀬次郎教授(併任)が発令される
- 4/11 平成9年度入学式(第25回)を体育館において挙行する(入学者医学科男76名、女24名、計100名、看護学科女60名、計60名)
- 7/ 1 学長に久保良彦が発令される
- 8/ 1 副学長に片桐 一(教育研究および厚生補導担当)および牧野勲(医療担当)が発令される

1997

[平成10年]

- 2/ 7 冬季オリンピック長野大会開幕
- 5/27 若乃花が横綱昇進、史上初の兄弟横綱誕生
- 7/25 和歌山で砒素混入カレー事件
- 7/30 橋本龍太郎に代わって小淵恵三が首相に就任

- 3/25 平成9年度学士学位記授与式(第20回)を体育館において挙行する(卒業生男78名、女22名、計100名)
- 4/ 1 医学部附属病院に医療情報部が設置される
- 4/10 平成10年度入学式を体育館において挙行する(入学者医学科男73名、女27名、計100名、看護学科男2名、女58名、計60名、同3年次編入女4名、計4名)

1998

## ●旭川医科大学の主要な出来事

## [平成11年]

- 2/20 参与に伊藤義郎、菅原功一、丹保憲仁、日野原重明、廣重 力、堀 達也、前原澄子が発令される。
- 3/10 旭川医科大学学友会会章をもとに学章を制定する(雪の結晶とナナカマドの実を図形化)
- 3/25 平成10年度学位記授与式を体育館において挙げる(卒業生男66名、女33名、計99名)
- 4/ 1 情報処理センターを設置する(学内措置)  
医学部附属病院に遠隔医療センターを設置する(学内措置)  
附属図書館長に松嶋少二教授(併任)が発令される
- 4/ 9 平成11年度入学式を体育館において挙げる(入学者医学科男73名、女22名、計95名、看護学科男1名、女59名、計60名、同3年次編入女10名、計10名)
- 6/ 9 看護学科完成記念式典を挙げる

## [平成12年]

- 3/24 平成11年度学位記授与式を体育館において挙げる(卒業生医学科男83名、女20名、計103名、看護学科男3名、女58名、計61名)
- 4/ 1 附属図書館長に黒島晨汎教授(併任)が発令される  
事務局長に松本五朗が発令される  
細菌学講座を微生物学講座と改称する  
大学院医学研究科を大学院医学系研究科と改称する  
大学院医学系研究科に修士課程看護学専攻が設置される  
運営諮問会議委員に伊藤義郎、大田すみ子、黒田一秀、佐野文彬、杉山 裕、館田邦彦、廣重 力、毛利義臣および吉川 潮が発令される
- 4/ 7 平成12年度入学式を体育館において挙げる(入学者医学科男66名、女29名、計95名、看護学科男2名、女58名、計60名、同3年次編入女10名、計10名)
- 5/ 1 医学部附属病院に治験支援センターを設置する(学内措置)
- 10/ 6 12年度医学科第2年次後期編入学生入学式(第1回)を第1会議室において挙げる(編入学者男2名、女3名、計5名)

## [平成13年]

- 3/23 平成12年度学位記授与式を体育館において挙げる(卒業生医学科男67名、女34名、計101名、看護学科女69名、計69名)
- 4/ 1 医学教育実践指導センターを設置する(学内措置)  
附属図書館長に山内一也教授(併任)が発令される
- 4/ 6 平成13年度入学式を体育館において挙げる(入学者医学科男67名、女28名、計95名、看護学科男2名、女58名、計60名、同3年次編入女10名、計10名)
- 7/ 1 学長に久保良彦が発令(再任)される
- 8/ 1 副学長に片桐 一(教育研究および厚生補導担当)および牧野勲(医療担当)が発令(再任)される
- 9/ 5 新病棟完成記念式典を挙げる
- 10/ 1 13年度医学科第2年次後期編入学生入学式を第1会議室において挙げる(編入学者男4名、女1名、計5名)

## ●国内外の主要な出来事

## 1999

- 1/ 1 欧州単一通貨ユーロ、参加11国で発足
- 1/25 性交不能に効くバイアグラ認可
- 8/ 9 国旗・国歌法成立
- 8/17 トルコ西部で大地震、死者1万7千人以上
- 9/30 東海村で国内初の臨界事故
- 12/20 マカオが中国に返還

## 2000

- 3/31 北海道の有珠山噴火
- 4/ 5 死亡した小淵恵三に代わって森喜朗が首相に就任
- 6/13 韓国・北朝鮮首脳が初会談
- 6/26 米英日が同時にヒトゲノム解読完了を発表
- 7/21 九州・沖縄サミット開催
- 9/ 1 三宅島噴火で全島民避難開始
- 9/16 第27回オリンピックシドニー大会開催
- 10/10 白川英樹がノーベル化学賞受賞
- 11/ 5 旧石器発掘でねつ造発覚

## 2001

- 4/26 森喜朗に代わって小泉純一郎が首相に就任
- 9/10 日本初のBSE(狂牛病)確認
- 9/11 米同時多発テロ
- 10/10 野依良治がノーベル化学賞受賞
- 11/15 アフガニスタンでタリバン政権崩壊

●国内外の主要な出来事

●旭川医科大学の主要な出来事

[平成14年]

2002

- 5/20 東ティモールが独立
- 5/31 日韓共催サッカーワールドカップ開幕
- 8/ 5 住民基本台帳ネットワーク稼動
- 9/17 小泉首相が北朝鮮訪問、金正日総書記と会談、日朝平壤宣言
- 9/15 北朝鮮による拉致被害者5人が24年ぶりに帰国
- 10/ 8 小柴昌俊がノーベル物理学賞受賞
- 10/ 9 田中耕一がノーベル化学賞受賞

- 1/ 1 事務局長に太田貢が発令される
- 3/25 平成13年度学位記授与式を体育館において挙げる(卒業生医学科男67名、女30名、計97名、看護学科男2名、女65名、計67名)
- 4/ 1 耳鼻咽喉科学講座を耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座と改称する  
看護学科3大講座制を1大講座性に改組する  
救急医学講座が設置される  
アドミッションセンターが設置される  
医学部附属病院に総合診療部が設置される  
国立大学法人移行準備室を設置する  
運営諮問会議委員に伊藤義郎、大田すみ子、小田清一、佐野文男、嶋村輝郎、清水哲也、館田邦彦、廣重 力および松田忠男が発令される
- 4/ 5 平成14年度入学式を体育館において挙げる(入学者医学科男63名、女32名、計95名、看護学科男3名、女57名、計60名、同3年次編入男1名、女9名、計10名)
- 9/26 スキルズ・ラボラトリー開所式を挙げる
- 10/ 1 14年度医学科第2年次後期編入学生入学式を第1会議室において挙げる(編入学者男4名、女1名、計5名)
- 12/11 旭川医科大学研究戦略室を設置する  
旭川医科大学教育支援室を設置する

[平成15年]

2003

- 3/19 米英軍がイラクと開戦、主とバグダッドをミサイル攻撃
- 4/ 1 日本郵政公社発足  
市町村合併で33市町村が7市4町に再編、さいたま市など誕生
- 4/ 3 厚労省が新型肺炎SARSを新感染症に認定
- 4/24 理化学研究所のグループが新種のビタミン(ピロロキノリンキノン)を発見
- 8/27 火星が6万年ぶりに地球へ大接近

- 3/25 平成14年度学位記授与式を体育館において挙げる(卒業生医学科男66名、女26名、計92名、看護学科男1名、女64名、計65名)
- 4/ 1 衛生学講座および公衆衛生学講座を健康科学講座に改組する  
学科目哲学を廃止し学科目歴史を歴史・哲学と改称する  
医学部附属病院に周産母子センターが設置される  
医学部附属病院に経営企画部が設置される
- 4/11 平成15年度入学式を体育館において挙げる(入学者医学科男59名、女31名、計90名、看護学科男5名、女55名、計60名、同3年次編入男2名、女8名、計10名)
- 7/ 1 学長に八竹 直が発令される
- 8/ 1 副学長に塩野 寛(教育研究および厚生補導担当)および石川睦男(医療担当)が発令される  
附属図書館長に小川勝洋教授(併任)が発令される
- 9/10 学長補佐(国際交流・社会連携担当)に小川勝洋が発令される
- 10/ 1 15年度医学科第2年次後期編入学生入学式を第1会議室において挙げる(編入学者男5名、計5名)
- 11/ 5 開学30周年記念式典を挙げる

[平成16年]

2004

- 8/13 第28回オリンピックアテネ大会開催

- 3/25 平成15年度学位記授与式を体育館において挙げる(卒業生医学科男84名、女24名、計108名、看護学科男2名、女64名、計66名)

主要参考文献:『近代日本総年表』第4版(岩波書店)・『イミダス』2003年版・2004年版(集英社)・『旭川医科大学概要』各年版・『写真集 旭川医科大学二十年の軌跡』1994年  
なお、本学の恒例行事については、入学式・卒業式を除き、原則として初回のみを掲載した。